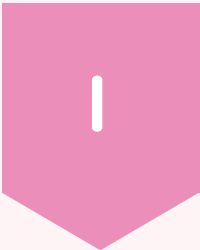


福島市職員 ひとり1改善・1改革運動 「かえるチャレンジ」



令和8年1・2・3月分
月間賞 受賞一覧





《改善》 応急手当普及員のための救命講習手引き作成と教材用DVDの再編集

〈取組内容〉

救急振興財団のDVDを救命講習の流れに沿って再編集するとともに、各項目の指導ポイントを要約し手引きを作成した。

これにより指導手順や時間配分のイメージが湧きやすくなり、普及員がより実施しやすい環境を整えた。

〈効果〉

- ・普及員の指導に対する不安軽減となった。
- ・講習会実施回数の増加が期待される。

《改善》 議員と事務局の打合せにおける ZOOM活用の推進

〈取組内容〉

議会ICT化の一環として、令和7年度からの委員会等オンライン開催に向け、事務局と議員の打合せにZOOMの利用促進を図った。

〈効果〉

- ・ 議員の移動負担の軽減となった。
- ・ 打合せにかかる職員の事務負担軽減となった。

《改善》 データ活用による定額減税不足額給付金業務の抜本的見直し

〈取組内容〉

定額減税不足額給付金業務について、業務フローを「申請後の審査」から「データによる事前判定」へ根本的な見直しを実施した。Accessの構築により、情報の一元管理が可能となった。

〈効果〉

- ・事前判定の導入により、給付対象外からの申請が削減された。(175件)
- ・支給までの期間が短縮された。(約2か月→約1か月)
- ・データの一元管理により作業時間が削減された。(年間3,848時間削減)

《改善》 閉校備品の処分費用削減について

〈取組内容〉

閉校した学校の備品は、従来は庁内譲渡会後に処分していたが、新たに買取業者への売払いを行った。児童の机や椅子については木と鉄に分けて、鉄の買取業者へ売払いを行った。

〈効果〉

- ・ 約1,240万円の処分費用の削減となった。

《改善》 データによる再エネ発電施設の一元管理

〈取組内容〉

再エネ発電施設について、書類の提出や現地確認に伴う膨大な情報整理が必要だが、紙とデータベースの混在による管理の非効率化が課題だった。

Accessの構築により、施設概要や指導経過の一元管理と、定期報告書への自動転記機能を実現した。

〈効果〉

- ・ 情報の一元管理により、最新情報の漏れのない確認を実現した。
- ・ 情報の検索や職員間の共有、届出内容の確認時間が削減となった。
- ・ 年間960時間の事務処理時間が削減となった。

《改善》 申告案内書発送対象者選定業務のシステム化

〈取組内容〉

約9,000件の対象者選定、書類の判別、複数Excelでの発送管理といった手作業による非効率な業務を解消するため、選定から受理までを一元管理するAccessを構築した。さらに、申告書に二次元コードを導入し、業務の効率化を図った。

〈効果〉

- ・年間669時間の事務処理時間削減となった。
- ・二次元コードの導入により、受付処理の迅速化とミスの未然防止となった。

《改善》 齋場内広告掲載業務

〈取組内容〉

齋場内ロビーの柱2本にA1サイズ計6面の広告枠を設置し、エンディング事業に関する情報（広告）を来場者に提供することとした。

〈効果〉

- ・エンディング事業の認知度向上となった。
- ・新たな財源の確保となった。

《改善》後期高齢者医療業務見直し

〈取組内容〉

提出書類の確認や保険料試算などの手作業による事務負担が大きかったため、広域連合という外部組織へ改善要望をした。

問い合わせの多い項目についての通知書の記載方法の変更、ハードコピーでの提出を廃止、試算システムを導入した。

〈効果〉

- ・ 県内全体（40市町村）の事務効率化となった。
- ・ 年間108時間の事務処理時間が削減となった。